

飲水思源

自動車販売のリーダー

22

□ 菊池武三郎伝

トヨタ自動車の小型車 況が生まれた。

のトヨペットの生産がよ
うやく軌道に乗った。需
要も殺到し、販売承認制
の中でプレミアが付くほ
どの売れ行きを示した。
しかし、それも1年間ほ
どのことで、やがて割当
の配給辞退が出る状況
となった。昭和24年に実
施された「ドッジライン」
と呼ばれる日本経済安定
政策の急激な実施による
もので、クルマは欲しい
が金つまりで購入資金の
都合がつかないという状
況が生まれた。

ドッジラインの影響は
大きく、戦後の日本産業
は一時どこも崩壊寸前の
危機に陥った。トヨタ、
日産、いすゞも再建計画
が中断し、未曾有の大争
議に突入する。
占領後の日本では、米
国的な労働組合法が作ら
れ、昭和21年3月1日か
ら施行されていた。全国
に労働組合が結成され、
米国の保護と指導で労働
運動は高まる一方とな
り、22年2月1日のゼネ

トヨタの大争議



トヨタ自動車の小型車発売当時の車両運搬の様子

る。
た。賃金の一部カットを
承認する代わりに、危機
克服の手段として人員整
理を行わないとの覚書を
交わしている。

ドッジラインによる金
融ひっばきは、企業に大
打撃を与えた。人員整理
や賃金カットを行わざる
を得なくなり、労働争議
が頻発した。自動車産業
も同様で日産、いすゞに
続き、トヨタ自動車も25
年4月に約2カ月にわた
る大争議に入った。

この争議で、トヨタ自
動車は転換期にふさわし
い大変貌をとげる。会社
側はあらゆる努力をした
が、事態は好転せず、労
使による経営協議会を設
けて会合を重ねた。24年
再建案を検討。販売部門
の分離独立、過
剰人員の整理な
どを内容とする
再建案をまとめ
(文中敬称略)

ストにまで発展する。G
H(連合国軍総司令部) 止令を出した経緯があ
も会社側に協力を示し

労働争議で会社変貌

ストにまで発展する。G
H(連合国軍総司令部) 止令を出した経緯があ
も会社側に協力を示し

再建案をまとめ
(文中敬称略)
〓つづく〓